

はじめに

「十和田市は災害が少ないまち」というイメージをお持ちの方が少なくないかもしれませんが、近年、日本各地では大規模な自然災害が発生するとともに激甚化する傾向にあります。

災害はいつ、どこで発生するか分かりません。災害から命を守るため、また被害を減らすためには、一人ひとりの心構えも重要です。行政による「公助」だけでなく自ら命を守る「自助」、地域で助け合う「共助」を心がけ、日ごろから災害への備えと知識の習得に努め、災害時には適切な行動が取れるようにしましょう。

この防災マップは、従来の洪水・土砂災害のほか、地震による揺れや火山災害を加え1つにまとめたものです。

平時から身近なところに置いて、避難所や避難経路の確認、各種災害への対策などの手引きとしてご活用ください。

そして、何よりも大切な命を守るため、一人ひとりが災害への意識を高め、非常時持出品の準備を忘れず、災害に備えましょう。

災害から命を守るために

3つのポイント

- 1 各種災害について、現象や対策、避難のタイミングを確認しましょう。(P2~P8、P31~P32、P39~P40)
- 2 危険な場所や避難場所・避難経路を確認しましょう。(P9~P30、P33~P38、P41~P44)
- 3 非常時持出品・備蓄品を日ごろから準備しましょう。(P45)

1 避難行動ガイド

学校やコミュニティセンターなど指定された「避難所」に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を避けることで、既に周辺で災害が発生していたり、避難所までの移動がかえって命に危険を及ぼしかねないと判断した場合には、「近隣の安全な場所」や自宅内での「屋内安全確保」などを行います。

基本的な4つの避難行動

状況に合った臨機応変な行動が大切です。

1 行政が指定した避難場所への避難

時間にまだ余裕があるので、避難所には身の回りの必要なもの(スリッパや着替え、常用医薬品など)を持参しましょう。

2 安全な親戚・知人家、もしくはホテル・旅館などへ避難

親戚・知人には事前に避難可能なのか相談しておきましょう。
※ホテルなどは、宿泊料金が掛かります。

3 近隣の強固で高い建物などへ避難

ハザードマップであらかじめ安全を確認しておきましょう。あくまでも緊急避難という場合です。

4 自宅内の安全な場所へ移動

屋外の状況がすでに危険で避難困難な場合は、自宅の最も安全な場所へ移動しましょう。

屋外の状況

危険度

